様式 C-7-2

自己評価報告書

平成　２２年　４月　２３日現在

研究種目：　基盤研究（C）
研究期間：　2007～2010
課題番号：　１９５９２４９１

研究課題名（和文）　慢性閉塞性肺疾患患者のセルフマネジメント力を高めるための介入方法に関する研究

研究課題名（英文）　A study of intervention method to promote self-management in COPD(Chronic Obstructive Pulmonary Disease) patients

研究代表者
森本　美智子（MORIMOTO MICHIKO）
鳥取大学・医学部・准教授
研究者番号：５０３３５５９３

研究代表者の専門分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学
キーワード：慢性閉塞性肺疾患（呼吸器疾患）、増悪、セルフマネジメント、自己効力感、心理的状態、在宅酸素療法

１．研究計画の概要

本研究は、慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の身体的機能や精神的健康の低下を予防するには、患者のどのようなセルフマネジメント力をどのように強化する必要があるのかについて、増悪を予防するという観点から明らかにすることである。

(1) COPD と診断され、在宅で療養する病期Ⅱ期以上の者を対象として、増悪の予測因子（身体的機能に関する測定値と質問項目、心理的な状態に関する項目、療養行動に関する項目）、調整因子（サポートサイズ、特性的自己効力感、課題特異性自己効力感、病気の捉え方；認知的評価、対処方略）について、ベースライン調査、追跡調査を実施する。
(2) ベースラインデータから、増悪を起こした者（気道感染を起こした者）の特徴を検討する。
(3) 追跡期間中（１年間の間）に増悪を起こした者とそうでない者のベースラインデータを比較し、増悪に関連する要因を検討する。どのようなセルフマネジメント力を強化する必要があるのかについて、増悪（気道感染）に関連する要因を検討することで明らかにする。
(4) 増悪した患者の面接によるデータから、さらなる要因の探索やセルフマネジメント力を高めるための介入方法について示唆を得る。

以下の(5)は、計画当初は予定していなかったが、得られたデータから患者のセルフマネジメント力を高める介入方法を検討するには必要と考え、追加した。

(5) １年間に在宅酸素導入する患者の援助に直接携わった看護師を対象として、在宅酸素導入時に患者のセルフマネジメント力を高めるための看護援助がどの程度行われているのかについて調査を実施する。増悪を予防するという観点から不足している看護援助を明らかにする。

２．研究の進捗状況

過去１年間に増悪のエピソードのある者は、エピソードのない者よりも息切れの程度が有意に強く（$p<0.05$）、病気の影響性の得点が高かった（$p<0.01$）。また、抑うつ傾向・抑うつ状態に分類される者の割合が多い傾向にあった（$p<0.10$）。

追跡期間中（１年間の間）に増悪を起こした者とそうでない者のベースラインデータを比較すると、ベースライン時の努力性肺活量（FVC）、1秒量（FEV1.0）、息切れの程度に違いは認められなかったが、１年間の間に増悪した者（気道感染を起こした者；定期受診日以外で外来受診治療）は、そうでない者に比べ、ベースライン時のコントロール可能性（病気や症状に対する認知的評価）の得点、息切れの対応に対する自信（課題特異性自己効力感）が有意に低かった（$p<0.01$）。また、増悪を起こした者は、ベースライン時に自分のやりたいことができないと評価している傾向が強かった。この結果は、身体的機能（肺機能）の状態は同じであっても、自分の状況についてコントロール感を低めている者が、増悪を起こしやすいことを示唆するも

のであった。
　看護師を対象とした調査では、この１年間に在宅酸素導入患者に対して“セルフモニタリングできるように関わる”、“排痰を効果的に行えるように指導する”、“体重を維持することの必要性を説明する”、“息切れを最小限にする日常生活動作の仕方を説明する”、“ストレスマネジメントの方法を指導する”など、患者の病気や症状に対するマネジメントに必要と考えられる援助を「いつも行った」とした者は２割以下であった。患者のセルフマネジメント力を高める看護援助が十分行えているとはいえない現状が示めされた。

３．現在までの達成度
＜区分＞③やや遅れている。
（理由）
　新規対象者の紹介を受ける予定であったが、紹介を受けることができず、増悪の要因を検討するために十分といえるサンプル数を確保できていないため。増悪を起こした者（重症の増悪；入院）に対しては、現在１名の面接を行ったのみであり、調査要因以外の要因の探索は行えていないため。

４．今後の研究の推進方策
　現在得られているデータの分析を詳細に行い、増悪を起こした者（気道感染を起こした者）の特徴から、増悪がCOPD患者の機能（特に精神的機能）にどのような影響を及ぼすのかを検討していく。また、追跡期間中（１年間の間）に増悪を起こした者とそうでない者について、用いている療養法、病気の目安に用いている症状やサインに違いがあるのかについて、詳細に検討していく。
　計画当初は、COPD患者を対象とした調査のみを行う予定であったが、増悪を起こした者はコントロール感や息切れの対応に対する自信が低かったことから、看護援助がどの程度行われているのかについても調査を行った。その調査結果についても詳細に分析を行う。
　今後、重症の増悪で入院する患者がいる場合には、面接調査を行い、調査要因以外の要因の探索を行っていきたい。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）
① 森本美智子、慢性閉塞性肺疾患患者のストレス認知と精神的健康との関連に対処方略が及ぼす影響、日本看護科学学会誌、30巻、2010、印刷中、査読有
② 笹野芳、森本美智子、國丸友湖、森亜沙美、慢性閉塞性肺疾患患者の増悪に関する要因の検討、日本看護学会論文集成人看護Ⅱ、p162‐p167、2009、査読有
③ 森亜沙美、森本美智子、國丸友湖、笹野芳、慢性閉塞性肺疾患患者の身体的状態、心理的状態、ならびに療養行動、日本看護学会論文集成人看護Ⅱ、p87‐p89、2009、査読有
④ 森本美智子、谷村千華、高井研一、慢性閉塞性肺疾患患者の対処方略が精神的健康に及ぼす影響、日本看護科学学会誌、p31‐p40、2008、査読有

〔学会発表〕（計３件）
① 森本美智子、谷村千華、個人特性、職場特性および看護の専門的能力と「在宅酸素療法導入患者に対する看護援助」との関係、第36回日本看護研究学会（発表確定）、2010年８月21・22日岡山コンベンションセンター
② 森本美智子、慢性閉塞性肺疾患患者の対処パターンと精神的健康との関係、第19回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、2009年10月31日品川プリンスホテル
③ 森本美智子、谷村千華、外来通院慢性閉塞性肺疾患患者のサポートの有無が日常生活に与える影響、第２回日本慢性看護学学術集会、2008年６月21・22日東京（日本赤十字看護大学）